

雄物川河川環境検討会

—設立趣旨—

雄物川上流では、河道内にワンド・たまりが数多く形成され、その数は東北地方の一級河川の中で最も多く、生物の多様性を構成する生息・生育・繁殖環境の場として、良好な河川環境を形成しています。

しかし近年、河道が水域と陸域に分離される二極化[※]の進行により、水位の低下、流路の固定化、冠水頻度の低下等によるヤナギやハリエンジュ等の樹林化の進行、アレチウリ等の外来種の拡大といった変化が顕在化し始め、砂礫河原の減少やワンド・たまりの水際湿地環境の減少・劣化傾向が見られます。

河川環境の変化により、砂礫河原に依存する鳥類や昆虫類、植物等の生息・生育・繁殖環境の減少や雄物川を代表する地域固有種であるトミヨ属や本来の生息域である大河川に現在も生息するゼニタナゴなど、ワンド・たまり固有の魚類の生息・繁殖環境の悪化などが生じています。

このような状況を踏まえ、ワンド・たまりに着目した雄物川の河川環境の保全・再生にあたり、「雄物川上流自然再生計画」の策定及び策定後のモニタリングについて、専門的知識を有する有識者のご指導、ご助言を頂くものです。

※二極化…河床が低下することで、流路が固定化され、その結果、河川敷(高水敷)と低水路の高低差が大きくなること。